

---

# 魔法少女リリカルなのは 破壊者と呼ばれし者

SF00Q

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 破壊者と呼ばれし者

### 【Nコード】

N0234BA

### 【作者名】

SFOOQ

### 【あらすじ】

青年は転生した。

前世の記憶と破壊の力……そして、神に殺されて、死ぬ瞬間親友に裏切られた青年は憎しみを持って。

少年はすべてを否定し、すべてを憎む。

その果てに死しか待っていなかったとしても。

## プロローグ（前書き）

ちよつと予告と変わっています。  
あと一話以降は不定期です。

## プロローグ

何故だ。

どうしてだ。

そんな言葉しか浮かばない。

目の前で笑っている親友を見てそんな言葉しか浮かばない。

「…な…んで…お前が…」

親友は笑って言う。

「決まっているだろ？お前を殺すんだよ」  
さも当然のように言う。

どうしてだよ。

いっしょに笑った。

バカもやった。

あんなに笑って共に生きて来たのに……

「バカだろ？全部演技なんだよ。お前を殺すためにな!!」

俺がコイツと生きてきた十年は全部偽りだっていうのかよ!?

「そう言ってるの! ってか親友なんかできる分け無いだろ? お前みたいなのは人間には!」

……俺は確かにヤクザの組長の息子だ。

けど俺と親父は関係ないだろうが!?

「関係ないわけないだろ? お前が死ねば跡継ぎがいなくなって、俺

の手の物が上に立ちやすくなるのでな!!」  
そんなことのためにお前は……

「はっ！お前がどうなるかどうだっていいんだよ!!とつとと死ね  
!!」

そう言っつてアイツは俺に拳銃を放った。

……俺は生きているのか？

「死んどるぞ」

なんで意識があるんだよ？

「もちろん転生とやらをするためじゃ」

……どうでもいい、地獄でも天国でも煉獄でもいいから送ってくれ。

「無理じゃ」

なんでだよ、もう疲れたんだよ。

「無理だと言っただはすじゃ」

理由は？

「退屈だからじゃな」

はっ？

「わしらは無限に時間がある。ゆえに暇になる。そんな時に死んだものを生き返らせそいつの第二の人生を見て楽しむのが流行っていな」

別の奴を探せよ。

「お主がこのまま逝くとまた適当な魂を探して転生させねばならん。それが面倒だからじゃ」

……もう勝手にしろよ……

「そもいかなのでな、能力は自分で選ぶ決まりでな」  
ああ、わかったよ！！なら能力は、ロックマンのフォルテと同じ力で、徹底的にサポートに特化した奴を寄越せ！！

奴はにやりと笑い、

「ああ、いいぞじゃあ、せいぜい頑張つて楽しませろよ」と言った。

その笑みに何かを感じながらも俺は人間と世界そしてこんな目にあわせた神もいつか破壊してやるそう心に誓いながら浮遊感に身を任せた。

### S i d o O u t

「神様、よかつたのですか？」

神と言った男の横にいつのまにか白い羽が生えた男とも女ともとれるものがいた。

「何がじゃ？」

心底何ことかわからないという風に言った。

「あのものはかなりの憎しみを抱いていましたよ。将来的に……」  
その言葉に、神と呼ばれたものはゆがんだ笑みを浮かべ、

「いいんじゃないよ。わしが見たいのは、過ぎた力を得て死んだ後の表情だからな」

能力を得てもその体が耐え切れなければ意味がない。  
ゆえに大半の転生者は生まれてすぐに死ぬ。

そもそも神は生きている人間に干渉できない。

干渉できるのは死後の人間だけなのだ。

そして死んだときの表情、特に力を得たのに何もできずにいた奴は特にいい。

「そもそも今更それを言うか？」

と悪そうな笑みを浮かべ、言つと目の前に居た者も、

「あなたにはかかないませんね」

と悪い笑みを浮かべていた。

彼らは知らない、いつか後悔するときが来ることを。

男の憎しみを量り間違えていたことを、彼が転生した場所を。

## 一話 始まりの時(前書き)

一話です。

二話目もなるべく早く投稿します。

書けなかった理由は後書きで。

良ければ感想をください。

それではどうぞ。



## 一話 始まりの時

ここはとある一つの研究所

「やった。とうとう完成した。聖王の完全なクローンが!!」  
そう言って笑う男の前には一つのポッドがありその中には金髪の少年が入っていた。

「これであの予言も……ぐっわ!!」

突然ポッドから腕が伸び白衣の来た男の首を握り潰した。

「なぜ」その言葉が出る前に男の意識は無くなった。

その後、金髪は突然漆黒に変わり目は黒く変色した。

「ちっ面倒だな」

幼い声が部屋に響く。

そして十数分後研究所には一人を残して生き残りはいなくなった。

「それで、お前がオレのデバイスでいいんだな？」  
と顔が血で汚れた少年は目の前にある剣のキーホルダーに話しかけた。

『はい。それにしても驚きました』  
とキーホルダーの驚いた声が響いた。

「何がだ？」

少年は不思議そうに聞く。

『本来能力を貰っても体が耐え切れず死に至ります。ですがロードは普通なら死んでもおかしくないのに生きておられるので』

「ちつ。やはり裏があつたか」

と少年は顔を歪め天井を見上げる。

「まあいい、いずれ殺してやる。後で詳しく話せ……」スターダストと言います『スターダスト』

そう言うと少年は立ち上がりキーホルダーをつかむと、

「そういえばどうすればバリアジャケットだつたかは作れる」

少年の声に答えスターダストは、

『ロードがイメージすればあとは自動で行えます』

そう言い、少年は目をつぶる。一分もせず少年は光に包まれ、光がはれた後居たのはヘルメットをしぼるぼろのマントを体に巻いた者だつた。

『ところでの名前は何というのですか？』

先ほどのキーホルダーと同じ声が響く。

「……ゼロだ」

少年の声も響く。

『ゼロですね、了解しました。ところで、これからどこに向かいますか？』

「……地球の海鳴だ」

『何故です？』

疑問の声を上げる。

「俺以外にも転生者はいるのだから？」

『ええ。…なるほど他の転生書を襲うんですね』

と納得の声を上げる。

「バカな奴が原作介入だとほざいているだろうからな」と黒い笑みをあげながら言い少年はそこから消えた。

あるとき次元世界を滅ぼすもの現る。

かの者は他者を否定しすべてを破壊する力を持つ。

そして想像絶する憎しみを持ち、世界でさえ止められず、神は敗れ力を持つものも敗れる。

闇を食らい力を得て法は破壊され、狂気は倒される。

閃光は憎み、夜天は感謝と怒りを抱え、不屈の心は救うために戦う。破壊者は世界に傷を作り滅びる。

聖王教会、カリム・グラシア

## 一話 始まりの時（後書き）

理由は二つあり、一つは両親が休みになりパソコンをずっと使われているのと、二つ目が年末はコミケに初めて参加して……それが原因です。

ユフォーテーブルがありえない位待ったので疲れが……本当に済みません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0234ba/>

---

魔法少女リリカルなのは 破壊者と呼ばれし者

2012年1月2日07時46分発行